

開発観光計画 伊藤弘研究室

Development / Tourism planning ITO Hiromu laboratory



ITO Hiromu
伊藤 弘
いとう ひろむ

准教授

研究分野
農学/園芸学・造園学

研究キーワード
海岸林, 文化観光,
文化的景観, 景観構造,
農山村

文化遺産・自然遺産は、それが位置する周辺地域の自然・社会環境との関係から成立しており、それぞれの要素および関係を踏まえた資源の開発が、持続的な利活用に結びつくと考えています。遺産だけでなく、その成立要件である周辺環境とそれぞれの関係も対象に、その資源開発と観光をはじめとする持続的な利活用方策について、体系的な技術の構築を目標としています。

これまで秋田県および山形県における海岸林の資源化に関する研究や、宮城県松島および長崎県九十九島の多島海景観の利活用の歴史に関する研究、ベトナムや尾瀬における新たな資源発掘に取り組んできました。



三重・熊野参詣道



宮城・松島



群馬・片品・大清水



ベトナム・ドンホアヒエップ

研究室では演習、視察、現地調査などを行っています。学生たちには、そもそも観光に何ができるのか、観光の可能性を自分たち自身で考えてもらいたいと考えています。現在、日本において観光は、海外や域外からの経済効果を期待して取り組まれている傾向にありますが、それ以外にもさまざまな効果が期待されます。そういった効果を発揮させるためには、「世界遺産」ブランドに惑わされることなく、自分たちなりの見方ができるように研究に取り組んでいってもらうことを期待しています。あらゆる人々が、楽しみながら様々な遺産や資源を継承していけるような状況を生み出していくことが目標です。

研究室の活動や演習



プランニング演習(五箇山・白川郷地域)

自然及び文化遺産の持続的な利活用方策に関して、特定の資源を対象に、課題の整理からテーマの設定、計画案の策定に至る一連の作業を体験し、計画の考え方や作業の流れを理解するための演習です。



ゼミ視察(日本橋川・隅田川)

学生が研究の対象としている場所をゼミで訪れています。日本橋クルーズ-水上バス-屋形船を体験しました。ガイドさんの存在によって日本橋の歴史を知ることができ、展開される景観をより深く味わうことができました。



現地調査(奈良県吉野町)

研究室の学生たちと共に、博士前期課程の学生が研究対象としている吉野山~大峯奥駈道を現地踏査しました。国立公園ではありませんが、世界遺産に登録されている範囲です。未だに五番関から山上ヶ岳は女人結界となっております。これに関しては現在も賛否両論色々な意見があります。



学生の研究テーマ方向

対象：地域遺産、メキシコ・遺跡、吉野熊野、熊野参詣道、福建土楼、棚田、台湾、岡崎市祭り、日本橋、集落、湖
内容：制度、価値、イメージ、文化観光、商品、まちづくり、歴史、景観

